

被災地支援委員会の活動

一般社団法人 日本LD学会 一般財団法人 特別支援教育士資格認定協会
被災地支援委員会

日本LD学会の被災地支援委員会は、2011年3月の東日本大震災を受けて設置されました。東日本大震災に対しては、被害の大きかった岩手県、宮城県、福島県に対してWISC-IVの検査器具の贈呈、当時の上野理事長より寄贈された蔵書の贈呈を行いました。また、特別支援教育士資格認定協会との協力の下、講師の派遣や被災地支援のNPO活動への協力等も行ってまいりました。

その後、毎年のように起きる風水害、熊本地震以降の地震、大雪等の雪害などに対して、学会としてできることを考え、実行していく必要があることを痛切に感じています。子どもたちの命を守ることができるように、また支援の必要な子どもたちがどのような状況においても安心して過ごせるよう、必要な情報を提供したいと考えています。

1. 災害への対応

被災地支援委員会では、熊本地震以降の災害について、下記の対応を行ってまいりました。

- ①ホームページへのお見舞いの掲載
- ②災害時に役立つ情報の掲載
- ③特別支援教育士資格認定協会との協力の下、被災地の

S.E.N.Sの会支部会を通じた情報収集、要望への対応

今夏の九州を中心とした大雨や9月上旬の台風15号も大きな被害を与えました。また、10月中旬の台風19号は多くの地域に甚大な被害をもたらしました。今後も「常に災害は起きるもの」と考え、災害時の支援に関する情報を収集し、支援の充実に務めたいと考えています。

対応を行った主な災害

- 1. 熊本地震 (2016. 4)
- 2. 九州北部豪雨 (2017. 6~7)
- 3. 大阪北部地震 (2018. 6)
- 4. 平成30年7月豪雨 (2018. 6~7)
- 5. 北海道胆振東部地震 (2018. 9)
- 6. 山形県沖地震 (2019. 6)
- 7. 九州南部豪雨 (2019. 7)
- 8. 令和元年台風19号 (2019. 10)

2. 災害時の子どもの支援に役立つ情報について

ホームページには、参考資料として、特別な支援を必要とする子どもに対して災害時にまずもって必要と思われる配慮や対応について以下のように掲載しています。

1. 避難所・物資支給等での配慮

飲料や食料等の優先確保体制づくり、集団生活に伴う睡眠や休息、車中泊での健康管理、被災直後のトラウマや余震を含めた強いストレスへの対応

2. 家屋・家財等の復旧にあたって

「家屋・部屋に入れない」と訴える事例が多いため、家族揃って食事をする、同じ部屋で添い寝をするなど、当該児の傍で行動を共にする等の対応

3. 園や学校での配慮

不安を訴える子供たちに対して、安心感を持ってもらえるような寄り添いや働きかけ、級友との触れ合いの促進、必要に応じたストレスチェック、医師、SC、SSW等と連携した対応

また、行政や支援団体等が作成したマニュアル等を掲載しています。以下に、一例をあげます。

(1) 被災者および支援者向け

「障害を抱える特別な支援が必要な子どもとその家族のための緊急時対応準備マニュアル」

独立行政法人 国立国際医療研究センター

米国マサチューセッツ大学医学部で作成されたツールキットを翻訳したものの。様々な障害についての記載のほか、災害や緊急事態に対する一般的対応が書かれている。

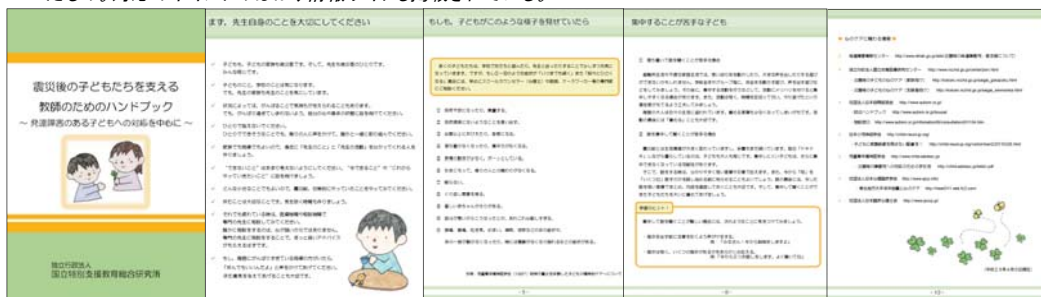
(2) 支援者向け

「震災後の子どもたちを支える教師のためのハンドブック

～発達障害のある子どもへの対応を中心に～

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

東日本大震災後に発達障害のある子どもに関わる教師向けに作成されたもの。対応のポイントのほか、情報サイトも掲載されている。



3. 皆様へのお願い

本委員会では、学会・協会ともホームページTOPに右のようにバナーを設けています。2. で挙げた情報はバナーで移動した先に掲載されていますので、ぜひご覧ください。また、各地ではそれぞれの地域に応じた災害に関するマニュアル等が作成されています。本委員会では、そのような情報を幅広く収集し、広く全国の学会員へ向けて発信したいと考えています。多くの皆様から情報提供いただければ幸いです。なお、今年度中には学会・協会のホームページ内に被災地支援委員会のページを設け、情報の収集・発信がスムーズにできるようにしたいと考えています。このような活動にぜひご協力くださいますようお願いいたします。

